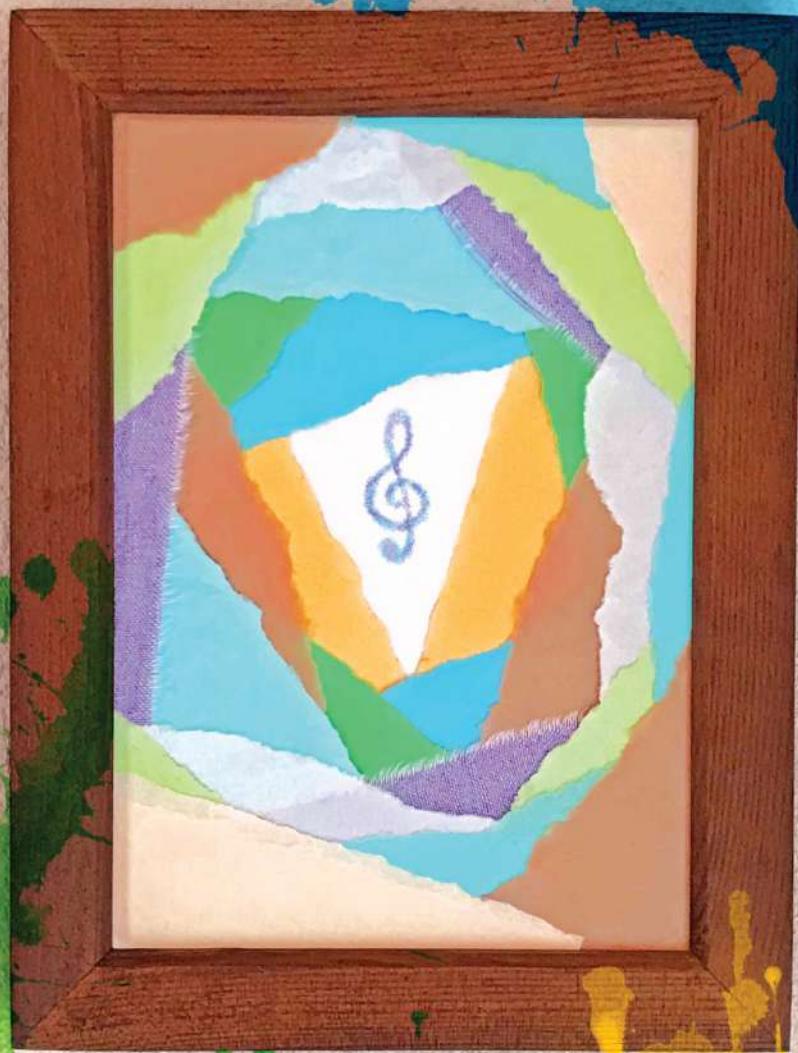


東京農工大学OB管弦楽団 第30回記念演奏会



2018年11月24日（土）
府中の森芸術劇場 どりーむホール
開場13:20 開演14:00

..... プログラム -Program-

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン作曲：「エグモント」序曲
Ludwig van Beethoven : Egmont Overture

ジヨルジュ・ビゼー作曲：「カルメン」第1、2組曲より抜粋
Georges Bizet : Selection from Carmen Suite No. 1 & 2

第一幕への前奏曲 「闘牛士」 *Prelude to Act I "Les Toréadors"*
ハバネラ 「恋は野の鳥」 *Habanera "L'amour est un oiseau rebelle"*
第三幕への間奏曲：間奏曲 *Entr'acte to Act III : Intermezzo*
第二幕への間奏曲：アルカラの竜騎兵 *Entr'acte to Act II : Les Dragons d'Alcalà*
衛兵の交代 *La Garde Montante*
ロマの踊り *Danse Bohème*

休憩（20分間） -Intermission (20 minutes)-

グスタフ・マーラー作曲：交響曲第1番ニ長調
Gustav Mahler : Symphony No. 1 in D major

第1楽章 ゆるやかに引きするように *Langsam, Schleppend*
第2楽章 力強く活発に、しかし速すぎないように *Kräftig bewegt, doch nicht zu schnell*
第3楽章 岩かに堂々と、遅くなりすぎないように *Feierlich und gemessen, ohne zu schleppen*
第4楽章 嵐のように激動して *Stürmisch bewegt*

指揮

小野寺弘滋（マーラー） *Koji Onodera (Mahler)*
ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク（ビゼー） *Pongsathorn Raksincharoensak (Bizet)*
藤原祥吾（ベートーヴェン） *Shogo Fujiwara (Beethoven)*

管弦楽

東京農工大学OB管弦楽団 TUAT OB Orchestra

プレコンサート

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン作曲 七重奏曲 作品20 より第一楽章
演奏者：川田泰孝(Vn)、藤原祥吾(Va)、江島達弥(Vc)、櫻澤健光(Cb)、
ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク(Cl)、樋元健志郎(Fg)、
佐藤真紀(Hr)

樂團からのご挨拶

団長 川田泰孝

この度は東京農工大学OB管弦楽団 第30回記念演奏会にお越し頂きまして、誠にありがとうございます。団員一同、この日を迎えたことを嬉しく思っております。

遡ること33年前の1985年、世間がバース・掛布・岡田の3者連続ホームランに酔いしれ、バブル経済の引き金とも言われるブラザ合意がなされた、その年に当団は発足しました。途中数年の休止期間はあったものの、当団がここまで継続的に演奏会を開催できたのは、諸先輩方をはじめとした多くの方々のご支援があってのことだと考えております。

さて皆さまは『企業30年説』という言葉をご存知でしょうか。多くの企業は30年というスパンで栄枯盛衰の道のりを経た後に倒産してしまう、別名『企業の平均寿命』とも言われる経済用語です。一方でオーケストラはあくまで趣味の世界、そんな言葉を当てはめるのも、どこかおかしく感じるかもしれません。しかし人の手で運営されるという点は企業と同じ。当団も約30年の中で繁栄あり衰退あり、様々な歴史を歩んできました。そうした中で30回目の演奏会を迎えたこと、またその節目で団長という職を務められたことを、私自身とても嬉しく感じております。

今回メインプログラムとして取り上げたマーラーの交響曲第1番、彼はこの曲を28歳の時に完成させています。皆さまは28歳の頃、どのような思いを抱きながら日々を送っていたでしょうか。希望・不安・葛藤、様々な思いが絡み合いながら、しかしどこか根拠の無い自信を持ちながら自分を表現していく、そんなマーラーの姿がこの曲から感じ取れます。当団もそんなマーラーと同様、設立年数で言えば道半ばです。マーラーは後に偉大な作曲家として大成しましたが、この30回という節目をもって当団が今後どのように変化していくのか、そこに僅かでも『希望』を感じて頂ければこれほど嬉しいことはございません。

最後になりますが、本日はこうした歴史や生き様、そして未来の姿を想像して頂きながら、当団の演奏会を楽しんでいただければ幸いでございます。

指揮者紹介

■ 藤原祥吾

東京農工大学管弦楽団2013年度入団。高校でヴァイオリンを始め、大学でヴィオラに転向したらしい。当楽団の第28回演奏会にて、リスト作曲のレ・プレリュードを指揮したことでの鮮烈なる指揮者デビューを果たした。

彼はグミが大好物である。練習中上手く振れないときを嘆いていたが、それを鎮めるために口いっぱいにグミを頬張る癖がある（虚偽）。また、最近は炭酸水にはまっているらしく、団員たちが炭酸水を飲んでいる姿を目撃した彼は、「おれがブームを作った、みんなおれの真似をしている」と思ったそうだ。お茶目（自意識過剰）で、皆から愛される良い奴である。遭遇すれば気絶するほどゴキブリがきらい。

そんな彼だが練習に対しては非常にまじめで、音楽の勉強や曲の分析に余念がない。今年指揮を振るペートーヴェン作曲のエグモント序曲は、シンプルな曲ながらベースラインや内声を確実に作り上げなければならないため、今まで振ってきた曲の中で最も苦労したそうだ。指揮者としての彼の経験はまだまだあるが、その姿は段々と板についてきたように思える。第30回という節目の演奏会の最初を飾る、彼の姿と演奏をお楽しみいただければ幸いである。

(T.N.)

■ ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク

ニックネームは「ドーン」。タイ出身で出身校である農工大の准教授です。

彼は本当に人が良くて、彼を嫌う人はいないのではと思っています（少なくともこのオーケストラには存在しない）。そして、その人柄を表わすかのように、皆に好かれ彼の周りにはよく人の輪ができています。

また、仕事柄海外出張に出かけることが多いのですが、出張前に練習に参加し、その足で空港へ移動したり、空港から練習へ直行したりという、売れっ子のようなスケジュールをこなすこともあります。そんなドーンさんを見ていると、身体を壊さないか心配になってしまいますが、本人は軽く「大丈夫だよ～」と言っています。その体力は一体どこから生み出されてくるのか……謎です。

今回、ドーンさんは当団では久しぶりにメインの指揮ではなく、中プロの指揮を振ります。そして、メインではクラリネットのトップを吹きますが、この曲はドーンさんが当団で初めてメインを指揮した曲になります。かつて指揮した曲を今度はクラでどの様に魅せるか、こちらも楽しみでなりません。もちろん、中プロの指揮で魅せてくれることを疑う余地はありませんので、指揮者・クラリネット奏者両方で魅せるドーンさんをお楽しみください。

(M.S.)

■ 小野寺弘滋

小野寺さんは農工大OBオケ創設時から活動に参加している、現在では数少ないメンバーです。第1回演奏会より指揮者として団を率いており、まさに当団の歴史そのものです。音楽はもちろんのこと、オーディオ・カメラ・車などを趣味としてお持ちなのですが、そのこだわりはまさに「趣味人」としてのお手本ではないでしょうか。それが最も発揮されるのは、もちろん音楽の場。小野寺さんは一見すると冷静沈着な方ですが指揮棒を持った途端、あふれんばかりの情熱をもって、わたしたちに音楽とは何たるかを教えてくれます。昔はその熱さゆえに団員と衝突することもあったそうですが（本人談）、その熱意は若いメンバーが多いOBオケのなかでもひときわ輝きを放っているのではないでしょうか。

今回指揮を振っていただくマーラー1番は、テンポや音量が目まぐるしく変化する、言うなれば感情の起伏が激しい作品です。それゆえに指揮者が担う役割は大変重要で、小野寺さん自身もその苦労を練習中に語っています。わたしたち団員一同、この節目に相応しい演奏をお届けすることができるよう、小野寺さんと共に情熱をもって頑張りたいと思います。それでは本日の熱い演奏、そしてマエストロ小野寺の指揮をお楽しみに！

(Y. K.)



左から、小野寺、川田、藤原、ドーン。
2018年10月21日（撮影：百田農）

曲目紹介

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 劇付隨音楽「エグモント」序曲

エグモントは16世紀に実在したオランダの伯爵である。当時のオランダはスペインの圧政から逃れるべく独立運動を行なっており、彼はその指導者として奮闘していた。詩人ゲーテはこの史実をもとに、エグモントを主人公とした五幕の悲劇を書いた。その概要は以下の通り。

『エグモント』伯爵率いるオランダ独立運動弾圧のため、スペイン王のフィリップ二世はアルバレス公爵を差し向ける。公爵により公布された厳しい政策や、街中に配置された衛兵は、市民の暮らしを圧迫した。エグモントはとうとう公爵邸に赴き、国王による政策の過ちを直言するが、反逆罪として捕らえられ、死刑の宣告を下されてしまう。そして死刑当日、断頭台へ向かう直前のエグモントの前に、愛する人クラーラの幻影が現われ、彼を祝福した。幻影から覚めた彼は、「おれは自由のために死ぬのだ」と強い足取りで刑場へと向かうのであった。

ゲーテを敬愛していたベートーヴェン（1770-1827）はこの悲劇を、序曲を含めた十曲の劇音楽におさめた。「エグモント」序曲は10分程度にまとめられたソナタ形式の曲であるが、そこには悲劇的であるが勇ましい、壮大なドラマが凝縮されている。

(藤原)

ジョルジュ・ビゼー

「カルメン」第1、2組曲より抜粋

カルメンは、世界中でオペラの筆頭にあげられる名曲揃いの傑作です。パリ生まれのビゼー（1838-1875）が生きていた当時、オペラといえば華やかな舞台に着飾ったヒロインが登場し、物語の題材は神話や貴族社会など雲の上の世界を描いたものがほとんど。一方、カルメンのあらすじは、「軍隊の伍長ドン・ホセが、自由に生きるジプシー美女カルメンに恋をしたことで人生が狂い始め、その後、移り気なカルメンに捨てられ、嫉妬に狂ったホセがカルメンを殺してしまう」というものです。「主人公が女性労働者で悪女」。

「勝手な都合で軍の業務を放棄した脱走兵ホセ」、「密輸団の登場」という設定は、当時の聴衆にとって受け入れ難い内容で、初演は失敗に終わりました。しかし、時代、社会の変化によって作品の見方が大きく変わり、一般市民のリアルな実像を描いたオペラとして認められ、今日では大人気作品となっています。ビゼーは37歳で世を去りましたが、もう少し長生きしたならばフランスのオペラの歴史は変わっていたかもしれません。

カルメン組曲は、このオペラから名シーンを抜き出し、管弦楽用に編まれたもの。演奏時間の都合上、抜粋としましたが、どの曲も素敵なので選ぶのに悩みました。今回の方針はオペラの登場人物の名刺代わりとなる曲を中心にしてこととし、その結果、華やかな「闘牛士（エスカミーリョ）」、色気たっぷりな「ハバネラ（カルメン）」、美しい純愛を描く「間奏曲」、素朴な「アルカラの竜騎兵（ホセ）」、愉快な「衛兵の交代（街の悪ガキ）」、にぎやかな「口マの踊り（ジプシーたち）」という構成になりました。それぞれの登場人物を想像しながらお楽しみください。

（ドーン）

グスタフ・マーラー

交響曲第1番ニ長調

第30回記念演奏会のメインプログラムとして、グスタフ・マーラー（1860-1911）の交響曲第1番を選びました。この曲は2006年の第18回演奏会で一度取り上げていますが、それは私たちにとって初めてのマーラー演奏であり、大いなる挑戦でもありました。挑戦と書く理由を端的に言えば、マーラーの音楽は複雑で音の数が多くとても難しいから。もちろん音楽の難しさにはさまざまな種類があり、音形がシンプルで容易であっても「音楽」にするには極めて難しい曲がたくさんあります。しかし、マーラーは、音楽にするという意味でも難しいところがありますが、それ以前に、書かれた音符を音にする「技術」の点で難しいのです。

このオーケストラは大学のOB団体と名乗ってはいても、入団に際して条件や審査があるわけではなく、奏者の技術レベルもまちまちです。したがって団の発足から10年以上、全体像の提示ができれば（+気合いで）音楽になりうる可能性が高い曲を、私はできるだけ選び続けてきました。演奏会は身内向けの発表会ではないからです。「誠実に正確に、情熱を持って」というのが、私が提唱した当団のモットーでしたが、その言葉の内側には、誠実さや情熱で技術を超えたという思いもありました。

しかし、今年ビゼーを振るドーン君（第15回から指揮者）は、私ではできなかった挑戦をしてくれました。12年前のマーラーは彼の指揮で行なわれたものでしたし、以降、ショスタコーヴィチやブルックナーなど、発足当時では考えられなかった大曲プログラムを実現したのです。前回のマーラーを終えたときの団員の達成感ある噴れやかな笑顔を見たとき、挑戦することは素敵だなと思ったものでした。

今年、マーラーの交響曲第1番を選んだ理由は、川田君の団長挨拶に記されている通りです。補足するならば、この曲は作曲家28歳（1888年）のときに一応の完成を見たのち、大きな改訂を行ない、その約10年後に現在演奏されている形となりました。いずれにせよ、野心に満ちたマーラーの「青春の歌」であることに変りはなく、希望と絶望、自然と人間が交錯するかのように音楽は進んでいき、最後は高らかな凱歌で締めくくられます。若々しさと未来へ踏み出す力強さ。それがこの曲の本質のように私は思います（なお、標題になることが多い「巨人」は、音楽とは無関係とされています）。

かつての当団のプログラムには曲目の解説がなく、かわりにその曲に取り組んできた過程で思い浮かんだことを書く「演奏ノート」を置いていました。本稿はその故事に倣って進めてきましたが、結びに簡単にこの曲の概要をご紹介します。

自然の中から生命が生まれるように始まる第1楽章、快活な3拍子で生き生きと進む第2楽章、素朴で美しく寂しげで、どこか現実離れした第3楽章、一転して第4楽章は激しい嵐で始まり、甘美な回顧や葛藤を経て、前記のように高らかな凱歌へと到達します。およそ1時間の、これはひとつの抽象的な物語です。

マーラーの指揮は私にとって初めての経験となりました。新しい挑戦ができたことに、その挑戦の後押しをしてくれた団員に、そして、この30余年、当団に関わってくださったすべてのみなさんに深く感謝いたします。

（小野寺）

第30回記念演奏会にあたって

小野寺弘滋

東京農工大学OB管弦楽団は1985年に誕生しました。その年の11月、第1回目の演奏会に参加した団員は42名、エキストラ（賛助奏者）を含めても48人による船出でした。それから33年。団員が100名を数えることも少なくなり（今年のマーラーでは100人超の団員がステージ上で演奏します）、発足時では考えられないほどたくさんの方々が聴きに来てくださるようになりました。

ここでは、第1回から第29回のプログラムを掲載し、われわれの道のりを振り返りたいと思います。第1回から第5回までは、団員だけに向けたバロディプログラム（海賊版と呼んでいた）も作成しており（第4回を除く）、これらは初公開となります。

当団は、東京農工大学管弦楽団（現役オケ）第10回定期演奏会（1981年）の時の部長だった大西正敏さんを中心に、「大学オケが創部から10年以上経ち、そろそろウチもOBの団体をつくれるのではないか」という人々の想いのもとスタートしたオーケストラです。最初の団長は三角好輝さん（現役オケ第6回定期演奏会時コンサートマスター＝コンマス）、コンサートマスターは前田育夫さん（同第1回コンマス）でした。

私（同第11回学生指揮者）は、大西さんからの「OBオケをやることになったんだけど、小野寺よお、指揮者やってくんない？」という一本の電話によって参加することになりました。まさか30回目の演奏会でも指揮者をやっているとは思いもしませんでしたが。

当時、アマチュアのオーケストラは、専門教育を受けた音楽のプロに指揮者をお願いするのが「常識」だったように思いますが、発足に当たって、指揮者も含めオールアマチュアで演奏会を行なうというコンセプトを立てました。「誠実に正確に、情熱を持って」という理念がフレーズとしてまとまるのは何年か後のことですが、技術面などで至らない点が無数に生じてしまうことは承知のうえで、少なくとも情熱と誠実さにおいてなら、アマチュアでもしっかりと音楽に向き合えるのではないかと思ったのです。それに……私が考える究極のアンサンブルとは、気分が最高に合っている状態のことだったりするわけで……。後年、このオールアマチュアというコンセプトを見直そうとしたこともありましたが、意外にも世代を超えて多くの団員の支持があり、それが当団のひとつの特質になったようです。今回の演奏会では3人の指揮者が振りますが、3人とも団員であり、もちろんアマチュアです。

1985年に発足した第一期のOBオケはしかし、組織運営がうまくいかず、1991年1月の第5回演奏会をもって解散の憂き目にあいます。いまでも「定期」演奏会としているのは、発足から10年近く、定期的にコンサートを開くことができなかつた、その名残りなのです。

解散のほとりが冷めたあたりの1993年、今度は高木淳一君（同第18回部長）から私に、「石橋真さん（同第17回部長）たちと話をして、もう一度OBオケをやろうということになったんスけど、指揮者お願いできないスか？」という電話がありました。こうして第二期がスタートし、現在にいたる組織が生まれました。第二期最初の演奏会（1994年）でコンサートマスターを務めた山内敏彰君（同第21回コンマス）は、のちに団長を兼任するなど、長きにわたって当団に多大な功績を残してくれることになります。

第12回演奏会からは指揮者やコンサートマスターを複数人体制として組織強化を図り（このころ団員数が100人前後まで増えています）、2003年の第15回演奏会以降、ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク君（同第30回学生指揮者）が指揮者として定着します。この年の、中島薰さん（同第28回コンマス）がコンサートマスター（ミストレス）を務めた、ラフマニノフ交響曲第2番の演奏は忘れがたいものとなりました。けれどその後の数年間、練習参加者の少なさなど慢性的に抱えていた問題が頭在化し、一時は団の存亡の是非を問うまでの事態に陥ります（それは何が悪かったというよりも、きっと、巡り合わせのようなものなのでしょう）。

第19回演奏会よりOBオケに参加した川田泰孝君（同第38回コンマス）は、こうした事態を改善すべく何年もかけてオーケストラの立て直しを画策し、今年は団長とコンサートマスターを兼任、練習参加者が大幅に増え、当団史上最大の演奏会を開催できるまでにいたりました。また、第28回演奏会から、藤原祥吾君（同第44回学生指揮者）が指揮者に加わったこともここに記すべき出来事です。なぜなら当団で3年以上指揮者を務めたのは、今年のこの3人しかいないのですから。

もちろん、20年以上も黙々と運搬係を引き受けている主濱宏一君（同第22回団員）をはじめ、会計、広報、会場…といったさまざまな係、副団長やインスペクターや演奏会実行委員や各リーダー、トレーナーの先生方、そして、これまでこのオーケストラに参加した一人一人の存在によって、こんにちの東京農工大学OB管弦楽团があることを忘れるわけにはいきません。演奏会にお越しいただいたすべてのみなさんのことも。

このような組織は、人の想いがつくり人の想いがつないでいくものです。よって、結びに、人々の代表として当団歴代幹部を列記し、記録に留めておくことにします。

本年5月、山内敏彰君が急逝されました。演奏会にあたり、祈りを捧げたいと思います。



■ 団長 : 三角好輝、矢野芳文、高木淳一、石橋真、柴田昌宏、佐藤真、大塚健一、
山内敏彰、西村宗親、白井賢司、川田泰孝

■ 指揮者 : 小野寺弘滋（1985年～2015年まで音楽監督）、大門一夫、藤枝仁、室智文、
ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク、藤原祥吾

■ コンサートマスター : 前田育夫、郡司知和、山内敏彰、中島薰、川田泰孝、出町文、溜愛奈



第1回 (1985年11月3日 音楽の友ホール)

- ♪ モーツアルト：歌劇「魔笛」序曲
- ♪ レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリア第2組曲
- ♪ ベートーヴェン：交響曲第1番

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：前田育夫
団長：三角好輝



第2回 (1986年11月24日 勤労福祉会館)

- ♪ ロウエ（ベネット編）：マイ・フェア・レディ・セレクション
- ♪ ドビュッシー（ピュッセル編）：小組曲
- ♪ ベートーヴェン：交響曲第8番

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：郡司知和
団長：三角好輝



第3回 (1988年5月29日 バリオホール)

- ♪ モーツアルト：交響曲第39番
- ♪ ワーグナー：歌劇「ローエングリン」第三幕への前奏曲
- ♪ チャイコフスキイ：バレエ「くるみ割り人形」より抜粋

指揮：大門一夫
指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：郡司知和
団長：三角好輝



第4回 (1989年5月7日 バリオホール)

- ♪ ハイドン：交響曲第104番「ロンドン」
- ♪ ポロディン：中央アジアの草原にて
- ♪ ドリーブ：バレエ「コッペリア」組曲

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：郡司知和
団長：三角好輝



第5回 (1991年1月12日 バリオホール)

- ♪ コープランド：市民のためのファンファーレ
- ♪ フォーレ(ラボー編)：組曲「ドリー」
- ♪ ベートーヴェン：交響曲第5番

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：郡司知和
団長：矢野芳文



第6回 (1994年5月29日 府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

- ♪ エルガー：威風堂々
- ♪ フォーレ：組曲「ペレアスとメリザンド」
- ♪ ブラームス：交響曲第2番

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：山内敏乾
団長：高木淳一



第7回 (1995年10月7日 ルミエール府中 あすかホール)

- ♪ ワーグナー：楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」
第一幕への前奏曲
- ♪ ブルッフ：コル・ニドライ
- ♪ ベートーヴェン：交響曲第5番

指揮：小野寺弘滋
チェロ独奏：小河秀太
コンサートマスター：山内敏乾
団長：高木淳一



第8回 (1996年10月13日 府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

- ♪ シベリウス：交響詩「フィンランディア」
- ♪ グノー：歌劇「ファウスト」よりバレエ音楽
- ♪ ブラームス：交響曲第3番

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：山内敏乾
団長：高木淳一



第9回 (1997年10月19日 府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

- ♪ ドリープ：バレエ「シルヴィア」組曲
- ♪ チャイコフスキイ：交響曲第6番「悲愴」

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：山内敏乾
団長：石橋真



第10回 (1998年10月11日 府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

- ♪ ヴェルディ：歌劇「運命の力」序曲
- ♪ J.シュトラウス：ワルツ「南国のバラ」
- ♪ ブラームス：交響曲第4番

指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：山内敏乾
団長：高木淳一



第11回 (1999年10月24日 府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

- ♪ モーツアルト：歌劇「魔笛」序曲
- ♪ ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番
- ♪ ドヴォルザーク：交響曲第8番

指揮：小野寺弘滋
ヴァイオリン独奏：海和伸子
コンサートマスター：山内敏乾
団長：柴田昌宏



第12回 (2000年10月8日)
府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

♪ ホロディン：歌劇「イーゴリ公」より「だったん人の踊り」

♪ ドビュッシー(ピュッセル編)：小組曲

指揮：藤枝仁

♪ ブラームス：交響曲第1番

指揮：小野寺弘滋

コンサートマスター：山内敏彰、中島薫

団長：柴田昌宏



第13回 (2001年10月21日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

♪ ヴェルディ：歌劇「ナブッコ」序曲

♪ シューベルト：交響曲第7(8)番「未完成」

指揮：室智文

♪ ブラームス：交響曲第2番

指揮：小野寺弘滋

コンサートマスター：山内敏彰、中島薫

団長：佐藤真



第14回 (2002年10月13日)
府中の森芸術劇場 ウィーンホール)

♪ バーンスタイン：キャンディード序曲

♪ J. シュトラウスII：皇帝円舞曲

指揮：小野寺弘滋

♪ ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」

指揮：室智文

コンサートマスター：中島薫

団長：大塚健一



第15回 (2003年10月5日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

♪ ウェーバー：歌劇「魔弾の射手」序曲

♪ レハール：ワルツ「金と銀」

指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク

♪ ラフマニノフ：交響曲第2番

指揮：小野寺弘滋

コンサートマスター：中島薫

団長：山内敏彰



第16回 (2004年9月26日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

♪ メンデルスゾーン：劇音楽「真夏の夜の夢」序曲

♪ フォーレ：組曲「ドリー」(ラボー編)

指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク

♪ シベリウス：交響曲第2番

指揮：小野寺弘滋

コンサートマスター：山内敏彰、中島薫

団長：山内敏彰



第17回 (2005年10月23日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

♪ フーグナー：リエンツィ序曲

♪ チャイコフスキイ：くるみ割り人形組曲

指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク

♪ ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」

指揮：小野寺弘滋

コンサートマスター：山内敏彰、中島薫

団長：山内敏彰



第18回 (2006年10月29日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

♪ モーツアルト：歌劇「フィガロの結婚」序曲

♪ 芥川也寸志：交響管絃楽のための音楽

指揮：小野寺弘滋

♪ マーラー：交響曲第1番「巨人」

指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク

コンサートマスター：中島薫、山内敏彰

団長：山内敏彰



第19回 (2007年11月4日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ ハチャトゥリアン：組曲「仮面舞踏会」
- ♪ シベリウス：交響詩「フィンランティア」
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
- ♪ チャイコフスキイ：交響曲第5番
指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：中島薫
団長：山内敏乾



第20回 (2008年10月19日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ ショスタコーヴィチ：祝典序曲
- ♪ チャイコフスキイ：幻想序曲「ロメオとジュリエット」
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
- ♪ ブラームス：交響曲第1番
指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：中島薫
団長：山内敏乾



第21回 (2009年10月11日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ ムソルグ斯基（ラヴェル編）：展覧会の絵
- ♪ シベリウス：交響曲第1番
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：中島薫
団長：西村宗親



第22回 (2010年11月28日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ ブラームス：悲劇的序曲
- ♪ チャイコフスキイ：イタリア奇想曲
- ♪ ブラームス：交響曲第4番
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：川田泰孝
団長：白井賢司



第23回 (2011年11月27日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ ベートーヴェン：エグモント序曲
- ♪ チャイコフスキイ：スラヴ行進曲
- ♪ ショスタコーヴィチ：交響曲第5番
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：川田泰孝
団長：白井賢司



第24回 (2012年10月7日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ チャイコフスキイ：バレエ「白鳥の湖」抜粋
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
- ♪ J. シュトラウス2世：喜歌劇「こうもり」序曲
- ♪ ブラームス：交響曲第3番
指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：川田泰孝
団長：白井賢司



第25回 (2013年11月17日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ メンデルスゾーン：序曲「美しいメルジーネの物語」
- ♪ ドリーブ：「コッペリア」組曲
- ♪ チャイコフスキイ：交響曲第6番「悲愴」
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：川田泰孝
団長：白井賢司



第26回 (2014年10月13日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ グリンカ：歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
- ♪ R. シュトラウス：ホルン協奏曲 第1番
コンサートマスター：川田泰孝
ホルン独奏：萩原頸乾
- ♪ ブルックナー：交響曲第4番 「ロマンティック」
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：出町文
団長：白井賢司



第27回 (2015年9月27日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ サン＝サーンス：歌劇「サムソンとデリラ」よりバッカナル
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
- ♪ シューベルト：交響曲第7(8)番 「未完成」
指揮：小野寺弘滋
コンサートマスター：溜愛奈
- ♪ シベリウス：交響曲第2番
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：出町文
団長：白井賢司



第28回 (2016年10月16日)
府中の森芸術劇場 ドリームホール)

- ♪ バーンスタイン：「キャンディード」序曲
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
- ♪ リスト：交響詩「前奏曲」
指揮：藤原祥吾
コンサートマスター：川田泰孝
- ♪ ドヴォルザーク：交響曲第7番
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：溜愛奈
団長：白井賢司



第29回 (2017年10月8日 調布市グリーンホール)

- ♪ ベルリオーズ：「ファウストの効罰」よりラコツィ行進曲
- ♪ チャイコフスキイ：莊嚴序曲「1812年」
指揮：藤原祥吾
- ♪ プラームス：交響曲第1番
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
コンサートマスター：溜愛奈
団長：川田泰孝



・第29回演奏会 2017年10月8日・

出演者・スタッフ

Conductor

小野寺 弘滋
ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク
藤原 祥吾

Violin

五十嵐 佳子
井元 理美
勝野 栄
加藤 佐和子
久川田 春孝
小泉 京也
小林 由佳
清水 雅人
須藤 潤
高島 永太
高橋 郁子
高木 晃大
田中 那実
鐵 慎太朗
鳥居 悅子
中田 康貴
浪岡 萌夏
原 優太
飛田 信彦
平澤 卓也
堀 加太斗
堀川 万泰
★堀川 万優子
桃井 善樹
森 篤
山口 てるは
★吉永 美美
#オテロ マヌエル
#森内 韶子

Viola

小野寺 弥生
菊田 真仁
小泉 界
小松 琴絵
小松 麻介
佐藤 佳
高橋 静香
★中石 光紀
野々口 正僕
平田 成美
藤原 祥吾
毛利 寛梨菜
矢田 来佳
中根 駿一朗
★藤原 美英子
渡辺 まりの

Flute and Piccolo

遠藤 明彦
大西 鴻生
川田 美希
佐藤 祐一
★中野 瑠璃
堀 智早

Oboe and Cor Anglais

新保 貴子
西岡 大祐
西島 裕美
★藤原 美英子
渡辺 まりの

Violoncello

岩下 望
江島 達弥
枝澤 海里
大橋 和正
小林 佳央理
★新井 健悟
佐伯 碧
佐藤 岳
永井 玲
★野村 璞
村松 未来
本橋 早紀
百田 農

Contrabass

安藤 拓也
榎本 紗央里
嵯峨 早友佳
櫻澤 健光
三倉 有理
主演 宏一
鈴木 莉野
長橋 花織
★本田 舜
湯脇 草馬

Fagotto and Contrafagotto

宍野 正治
石井 達久
島田 夏帆
★越元 健志郎
丸山 知紗
水澤 開

Horn

★新井 秀哉
太田 雄介
釜洞 埃里
黒瀬 実馬
佐藤 真紀
新保 晃平
田中 優花子
二宮 沙絵
羽生田 牙莉
林 佑美
藤村 千里
細田 明
町田 瑞樹
#萩原 順鈴

Trumpet

★青木 ゆうい
宇賀神 修一
西江 則
宇賀神 真希
下村 正起
野口 豊

Trombone

逃藤 未来
太田 有香
小林 誠平
柴田 昌宏
島田 萌絵
★土居 雅大

Tuba

藤井 南実
本多 惠克

Percussions

伊藤 友紀奈
★岩永 悠
逃山 泰
西岡 朋華
山口 晃
山本 雄貴
田中 優花子
二宮 沙絵
羽生田 牙莉
林 佑美
藤村 千里
細田 明
町田 瑞樹
#萩原 順鈴

Harp

#有馬 律子
合宿
♪：コンサートスター
★：A'トリーダー⁻
#：賛助

Trumpet

合宿
♪：コンサートスター
★：A'トリーダー⁻
#：賛助

団長

川田 泰孝
副団長 中島 港人
高島 永太
会計 勝野 栄
情報管理 安藤 拓也
運搬 加藤 佐和子
会場 主演 宏一
中田 康貴
中野 真衣
山崎 真由
斉木 ゆうい
佐藤 佳
広報 中島 港人
西堀 有紀
嵯峨 早友佳
鈴木 莉野
浪岡 萌夏
備品管理 吉永 美美
譜面 川田 泰孝
名簿 宇賀神 真希
練習録音 野村 琨
柄元 健志郎
レピュション・
弁当 西江 則

桂冠指揮者

小野寺 弘滋
指揮者 ポンサトーン・
ラクシンチャラーンサク
藤原 祥吾
コンサートスター 川田 泰孝

セクショナリーグ

弦楽器 川田 泰孝
木管楽器 天野 正治
金管楽器 野口 豊
打楽器 主演 宏一

関連演奏会情報

♪東京農工大学OB管弦楽団 第31回演奏会

2019年11月2日（土）昼公演
府中の森芸術劇場ドリーむホール 入場無料／全席自由
チャイコフスキイ：交響曲第6番「悲愴」
ビゼー：「アルルの女」第1,2組曲より抜粋
モーツアルト：「魔笛」序曲
指揮：ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク、藤原祥吾
Mail : tuatoborch.info@gmail.com
URL : http://tuat-obo.sakura.ne.jp/

♪Ensemble Tacet Concert 2019

2019年3月16日（土） 13時開場 13時30分開演
府中の森芸術劇場ウィーンホール 入場無料／全席自由
Mail : info2019@tacet.jp
URL : https://www.facebook.com/tacet.jp

♪東京農工大学管弦楽団 第47回定期演奏会

2018年12月26日（水） 18時開場 18時30分開演
府中の森芸術劇場ドリーむホール 入場無料／全席自由
チャイコフスキイ：交響曲第5番
チャイコフスキイ：バレエ組曲「眠れる森の美女」
サン=サーンス：交響詩「死の舞踏」
指揮：内藤佳有
URL : http://web.tuat.ac.jp/~conduct/

♪Ensemble Arpege 第16回演奏会

2019年6月29日（土）昼公演
府中の森芸術劇場ウィーンホール 入場無料／全席自由
Mail : EnsembleArpege@gmail.com
URL : https://www.facebook.com/ensemble.arpege